

保健編 3章 傷害の防止

●指導順序

単元計画配当	内容のまとめり	指導順について
第1時	ア 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	必ず単元の最初に取り扱う。
第2～3時	イ 交通事故などによる傷害の防止	第2～3時は順不同
第4時	ウ 自然災害による傷害の防止	ア、イに続いて取り扱うことが望ましい。
第5～8時	エ 応急手当 (ア) 応急手当の意義 (イ) 応急手当の方法	教科書の掲載順で行うことが望ましい。

●学校の授業及び学校の授業以外の場での取り扱い

学習内容や学習活動に応じて、取り扱いを判断することが望ましい。

「学習活動と評価の計画」の「時間」欄に、取り扱いの分類を示す。

分類	学習内容や学習活動の別	時間数
学	学校の授業が必要な時数 教師による適切な指導が必要な内容や、話し合い・実習などが必要なもので、学校での指導が望ましいもの。	6
▲	学校での指導が望ましいが、学校の指導計画や実施できる時間数によっては、学校の授業以外の場での学習が可能なもの。	2

●単元の評価規準

健康・安全への 関心・意欲・態度	傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
健康・安全についての 思考・判断	傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。
健康・安全についての 知識・理解	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解している。

●学習活動と評価の計画

★1 学校の授業以外の場での学習が可能と考えられる教材・学習活動を除いた、学校の授業が必要な時数

★2 【態度】…関心・意欲・態度, 【思・判】…思考・判断, 【知・理】…知識・理解

★3 学校の授業以外の場での学習が可能であると考えられる教材・学習活動の概要、配当時数

時間(教科書ページ)	学校での授業時間 ★1	学習活動・内容	評価規準と評価の観点 ★2	学校の授業以外の場での学習が可能なもの ★3
第1時 (p.86-87) 学 ▲		(1) 傷害の発生要因と防止 1. 本時の課題を理解する。 2. 傷害の要因について理解する。 3. 傷害の要因から、防止する対策について理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・傷害の発生要因や防止について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・傷害の発生要因や防止について、自分たちの生活と比較したり、関係を見つれたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。【思・判】 ・多くの傷害は、人的要因や環境要因などがかかわって発生すること、傷害を防止するには危険を予測し、適切な対策が必要であることを言ったり、書き出したりしている。【知・理】	○事故にあいそうになったり、けがをしそうになったりした経験やその原因を振り返り、記入する活動 (0.5時間)
第2時 (p.88-91) 学 ▲	第1時	(2) 交通事故の要因と傷害の防止 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 交通事故の要因について理解する。 3. 交通事故による傷害を防止する対策を理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・交通事故による傷害を防止するための対策について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・交通事故による傷害を防止するための対策について、資料などで調べたことをもとに、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・交通事故による傷害を防止するには、交通規則を守ることや、周りの状況に応じて落ち着いて安全に行動すること、道路などの交通環境を整備することなどが必要であることを言ったり、書き出したりしている。【知・理】	○資料6を見て中学生の交通事故の実態を知り、特徴を記入する活動 (0.5時間)
第3時 (p.92-93) 学	第2時	(3) 犯罪被害の防止 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 犯罪被害の人的要因と環境要因を理解する。 3. 人的要因と環境要因、それぞれに対する対策を理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・犯罪被害の発生要因や防止について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・犯罪被害の発生要因や防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つれたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。【思・判】 ・犯罪被害による傷害を防止するには、人的要因や環境要因にかかわる危険を予測し、適切な行動や対策をとることが必要であることを言ったり、書き出したりしている。【知・理】	

時間 (教科書ページ)	学校での授業時間 ★1	学習活動・内容	評価規準と評価の観点 ★2	学校の授業以外の場での学習が可能なもの ★3
第4時 (p. 94-99) 学	第3時	(4) 自然災害による傷害の防止 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 自然災害による傷害について理解する。 3. 自然災害による傷害を防止するための対策について理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・自然災害による傷害とその防止について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・自然災害による傷害とその防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけていたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。【思・判】 ・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることや、日頃から災害に備えておくこと、発生時には緊急地震速報などの情報を収集し、安全に避難することが必要であることを言ったり、書き出ししたりしている。【知・理】	
第5時 (p. 100-101) 学	第4時	(5) 応急手当の基本 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 応急手当の意義と目的を理解する。 3. 応急手当の手順について実習を通して理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・応急手当の意義や目的、手順について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・応急手当の意義や目的、手順について、資料などで調べたことをもとに、状況に応じた適切な方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・傷害の悪化を防止するには、応急手当を適切に行うことが必要であることを言ったり、書き出ししたりしている。【知・理】	
第6時 (p. 102-103) 学	第5時	(6) 心肺蘇生 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 傷病者の反応がないときの応急手当の手順を理解する。 3. 傷病者の反応がないときの応急手当のしかたを実習を通して理解する。 ※実習の際は、感染症対策を十分に行う。 4. 学習内容をまとめる。	・傷病者の反応がないときの応急手当の方法について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・心肺蘇生の目的や手順について、資料などで調べたことをもとに、状況に応じた適切な方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・心肺蘇生法には、胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸などがあることを言ったり、書き出ししたりしている。【知・理】	

時間 (教科書ページ)	学校での授業時間 ★1	学習活動・内容	評価規準と評価の観点 ★2	学校の授業以外の場での学習が可能なもの ★3
第7時 (p.104-105) 学 ▲		(7) 出血があるときの応急手当 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 身の回りで起こる外傷の応急手当について理解する。 3. 止血法について理解する。 4. 出血があるときの応急手当のしかたを実習を通して理解する。 ※実習の際は、感染症対策を十分に行う。 5. 学習内容をまとめる。	・出血があるときの応急手当の方法について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・出血があるときの応急手当の方法について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。【思・判】 ・出血があるときの応急手当として止血を行うことや、包帯の目的と使い方を言ったり、書き出したりしている。【知・理】	○出血があるときの外傷の応急手当の方法について、教科書などの資料を確認する活動 (0.5時間)
第8時 (p.106-107) 学 ▲	第6時	(8) 外傷の応急手当 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 打撲く傷、脱臼、ねんざ、骨折について、応急手当のしかたを実習を通して理解する。 ※実習の際は、感染症対策を十分に行う。 3. 熱中症の応急手当のしかたを確認する。 4. 学習内容をまとめる。	・身の回りで起こるけがの応急手当の方法について、自分たちの生活を振り返ったり、実習をしたりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・身の回りで起こるけがの応急手当の方法について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。【思・判】 ・外傷の種類やそれぞれの応急手当のしかたを言ったり、書き出したりしている。【知・理】	○打撲く傷や脱臼などの外傷の応急手当の方法について、教科書などの資料を確認する活動 (0.5時間)

◆新型コロナウイルス感染症の影響により、各種の取り組みを行い学校における指導を充実したとしても、なお、年度当初予定していた内容の指導を本年度中に終わることが困難である場合、内容の一部を次学年等に移して指導することも考えられる。その際は、教員間の引継ぎを徹底するなど、遺漏のないよう配慮されたい。

保健編 4章 健康な生活と病気の予防

第2学年 ●教科書 p.118~129 ◆配当授業時数6時間

●指導順序

単元計画配当	内容のまとめり（移行措置対応）	指導順について
第1～2時	イ 生活行動・生活習慣と健康	第1～2時は教科書の掲載順で行う。
第3～6時	ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	第3～5時は順不同、その後、第6時を行う。

●学校の授業及び学校の授業以外の場での取り扱い

学習内容や学習活動に応じて、取り扱いを判断することが望ましい。

「学習活動と評価の計画」の「時間」欄に、取り扱いの分類を示す。

分類	学習内容や学習活動の別	時間数
学	学校の授業が必要な時数 教師による適切な指導が必要な内容や、話し合い・実習などが必要なもので、 <u>学校での指導が望ましいもの</u> 。	3
▲	学校での指導が望ましいが、学校の指導計画や実施できる時間数によっては、 <u>学校の授業以外の場での学習が可能なもの</u> 。	3

●単元の評価規準

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
健康・安全についての 思考・判断	健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。
健康・安全についての 知識・理解	健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、個人の健康を守る社会の取組について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。

●学習活動と評価の計画

★1 学校の授業以外の場での学習が可能と考えられる教材・学習活動を除いた、学校の授業が必要な時数

★2 【態度】…関心・意欲・態度, 【思・判】…思考・判断, 【知・理】…知識・理解

★3 学校の授業以外の場での学習が可能であると考えられる教材・学習活動の概要、配当時数

時間 (教科書ページ)	学校での授業時間 ★1	学習活動・内容	評価規準と評価の観点 ★2	学校の授業以外の場での学習が可能なもの ★3
第1時 (p.118-119) 学▲	第1時	(5)生活習慣の変化と生活習慣病 1. 本時の課題を理解する。 2. 生活習慣と健康のかかわりについて知る。 3. 生活習慣病について理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・生活習慣の変化と生活習慣病について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・生活習慣の変化と生活習慣病について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つたりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・健康は食生活、運動習慣、休養や睡眠、喫煙、飲酒などの生活習慣と深くかかわっていること、生活習慣が原因となって起こる病気を生活習慣病ということを言ったり、書き出したりしている。【知・理】	○生活習慣病にはどのようなものがあるか、調べる活動 (0.5時間) ※ただし、書籍や新聞、インターネットなどの調べる環境が整っている必要がある。
第2時 (p.120-121) 学▲		(6)生活習慣病の予防 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 健康によい生活習慣について知る。 3. 生活習慣病の予防について理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・生活習慣病の予防について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・生活習慣病の予防について、資料などで調べたことをもとに課題や解決の方法を見つたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・健康を維持し、生活習慣病にならないためには、中学生の時期から健康を維持するための生活習慣を身につけておくことが大切であることを言ったり、書き出したりしている。【知・理】	○自分の生活を振り返り、健康を維持し、生活習慣病を予防するためにどのようにすればよいか、考えをまとめる活動 (0.5時間)
第3時 (p.122-123) 学▲		(7)喫煙と健康 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 喫煙による体への急性影響と依存症、習慣化による体への影響について理解する。 3. 受動喫煙の害について理解する。 4. 未成年者の喫煙の害について理解する。 5. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・喫煙と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・喫煙と健康について、資料などで調べたことをもとに課題や解決の方法を見つたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・たばこの煙には有害な物質が含まれていて体内に入ると悪影響があること、未成年者の喫煙は特に大きな影響を及ぼすことを言ったり、書き出したりしている。【知・理】	○喫煙の害や法律について、調べる活動 (0.5時間) ※ただし、書籍や新聞、インターネットなどの調べる環境が整っている必要がある。

時間（教科書ページ）	学校での授業時間 ★1	学習活動・内容	評価規準と評価の観点 ★2	学校の授業以外の場での学習が可能なもの ★3
第4時 (p. 124-125) 学▲	第2時	(8) 飲酒と健康 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 飲酒による体への影響について理解する。 3. 長期間にわたる飲酒による体への影響について理解する。 4. 未成年者はアルコールの影響を受けやすいことについて理解する。 5. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・飲酒と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・飲酒と健康について、資料などで調べたことをもとに課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・飲酒をするとエチルアルコールによる影響が体に現れることや、未成年者の飲酒は健全な発育・発達を妨げることや、書き出ししたりしている。【知・理】	○飲酒の害や法律について、調べる活動 (0.5時間) ※ただし、書籍や新聞、インターネットなどの調べる環境が整っている必要がある。
第5時 (p. 126-127) 学▲	第3時	(9) 薬物乱用と健康 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 薬物乱用の害と悪循環、依存症について理解する。 3. 薬物乱用の社会的影響について理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・薬物乱用と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・薬物乱用と健康について、資料などで調べたことをもとに課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・薬物乱用は心身に悪影響を与え、依存性により様々な障害が起きること、社会にも影響を及ぼすことを言ったり、書き出ししたりしている。【知・理】	○薬物乱用の害について、調べる活動 (0.5時間) ※ただし、書籍や新聞、インターネットなどの調べる環境が整っている必要がある。
第6時 (p. 128-129) 学▲		(10) 喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけ 1. 前時の復習をし、本時の課題を理解する。 2. 喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけには自分自身によるものと周りの環境からのものがあることを理解する。 3. どのようなきっかけに対しても、強い意志と適切な行動選択をすることが必要であることを理解する。 4. 学習内容をまとめ、「学習を活かして」を行う。	・喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【態度】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけについて、資料などで調べたことをもとに課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。【思・判】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などは心理状態や社会環境によって促されるため、強い意志をもって適切な行動選択をする必要があることを言ったり、書き出ししたりしている。【知・理】	○喫煙、飲酒、薬物乱用を勧められたときの断り方を考え、記入する活動。 (0.5時間)

◆新型コロナウイルス感染症の影響により、各種の取り組みを行い学校における指導を充実したとしても、なお、年度当初予定していた内容の指導を本年度中に終えることが困難である場合、内容の一部を次学年等に移して指導することも考えられる。その際は、教員間の引継ぎを徹底するなど、遺漏のないよう配慮されたい。